



心を磨く 技を磨く 体を磨く

校長 尾崎 淳一

先日、「第47回かきつばた杯女子剣道大会」を観戦しました。驚くほどのチーム数が参加しており、試合が行われるアリーナには部外者が入り込む余地はなかったので、おとなしく2階の観覧席へと向かいました。私の目的は、まず竜北チームを探すことです。ところが、これがなかなか見つかりません。「**竜北ジャージ**」を着ているわけではないし、「面」をつけてしまったら判別は不可能です。道着の名前を見よ、と言われそうですが、私の視力では酷な話です。しかし、試合の直前になり、私はついに竜北剣道部の皆さんを見つけられました。なぜなら、山中湖でもTDLでも不思議と遠くから判別できた「竜北剣道部顧問」が、ここでも目印になったからです。彼のおかげで観戦に間に合い感謝です。最後に**竜北大将の鮮やかな「胴」**が決まった瞬間、私は喜びのために2mは軽く飛び上がっていました！



しかし、「剣の道」は厳しいものがありますね。「今の『面』は決まったよね！」「『胴』で一本じゃないの？」と、私がいくら竜北チームを最前列（ひいきめ）で見ているとはいえ、審判の「赤旗」はぴくりとも動きません。逆に、「いやいや、浅いでしょ……」と油断していると、相手側の技を認める「白旗」がさっと上がったりします。「ソフトテニスの王子様」として、「IN」か「OUT」かの世界で生きてきた私にとって、この微妙で繊細な判定はどうにも苦手です。さらに、剣道の達人に聞くと、「一本」が決まった後には、【残心】なるものが要とのことです。これは、「技が決まった後も油断せず、相手の反撃に備えること」「勝ち負けに一喜一憂せず、勝っても負けても相手に礼を欠かないこと」という心構えだそうです。技が決まっても、その場ではしゃいではいけないのですね。確かに戦場ならば返り討ちに遭いますから。竜北中大将の見事な技に2mも飛び上がってしまった私は、深く反省するのみです。まさに【心・技・体】が備わっていないと、相手を上回ることができないことを実感しました。武道とは厳しいものです……。



ところで、多くの運動部では、「知立・刈谷地区中学校選手権大会」が、約1か月後に近付いてきました。竜北3年生にとっては、いよいよ「勝負の時」です。勝敗だけにこだわる必要はありませんが、【心・技・体】を磨き上げてきた竜北生だからこそ、やはり「勝利」を手にして、「夢」に近付きたいところです。ただ、残された時間で、[技]や[体]を飛躍的に伸ばすのは難しいことです。だからこそ、【心】を磨いてください。「自分に克つ」

「仲間を信じる」「絆を強める」「チームワークを高める」「相手を敬う」「声を出してきびきび動く」など、【心】を磨くことで、チームの一員としてできることはたくさんあるはずです。そして、【心】を磨けば、強いだけでなく応援されるチームになれると思います。

竜北チームの快進撃が楽しみです。期待していますよ。夏に輝け、「竜北生、Go!!」

9日(月)に学校保健委員会を開催し、「元気な脳の作り方」をテーマに岡崎女子大学の山下教授にご講演いただきました。その中で、本校3年生の運動能力や体力は、愛知県の平均を下回るとのデータが示されました。元気な脳や健康な体を作るのに、中学生の時期が最大で最後のチャンスとのことです。適切な「食事」「睡眠」「運動」が大切であることを全校生徒が学びましたので、ご家庭でも話題にしていいただければ幸いです。